

(巻頭言)

自動車向け当社アルミ・銅製品の普及拡大に向けて

藤井拓己

常務執行役員 アルミ・銅事業部門担当

Kobe Steel's Aluminum and Copper Products for Automotive Parts

Takumi FUJII



周知のように、地球温暖化ガス排出抑制を目指した自動車業界の取り組みは、過去長きにわたり主として1) エンジン駆動系の改良・新動力源の採用と、2) 車体軽量化の2つの切り口から営々と進められてきた。当社も素材メーカーの立場から、前者に対しては高性能な電子・電気材料、後者に対してはハイテン鋼およびアルミなどの車体軽量材料や溶接材料の供給を通じて、各自動車メーカーの目標達成に貢献をしてきている。

ただし近年では、北米のCAFE (Corporate Average Fuel Efficiency: 企業平均燃費) 規制の強化などが契機となって排出ガス抑制や燃費向上の緊急度が高まっている。その一方で、自動車の衝突安全性や快適性への高いニーズに伴う装備類の重量増は避けられず、後者の車体の軽量化がより重要な課題となっている。

そのような状況を受け、従来使用されている鉄系材料に加え、軽量化材料としてアルミ材や樹脂材の使用が増えてきつつあり、車体のマルチマテリアル化が進展しつつある。とくに欧米などでは、高級セダンのみならず生産台数の多いピックアップトラックなどの車体にもアルミ材が多用されて大幅な軽量化を達成していることから注目を集めている。

また、米国カリフォルニア州などで実施されているZEV (Zero Emission Vehicle: 排出ガスを一切出さない電気自動車や燃料電池車を指す) 規制は、EVやPHV、燃料電池車などの化石燃料依存度の低い車の普及を加速させている。ただしこうした新動力源を使用した車両においても、航続距離の延長や装備の充実のため、通常のガソリン車以上に車体の軽量化ニーズは高いものがある。このように軽量化車体材料への期待が過去にないほど高まっており、アルミ化、マルチマテリアル化は確実に進

展すると考えられる。

当社アルミ・銅事業部門内には、アルミ板、アルミ押出加工品、鋳鍛、銅板の製品ユニットを擁しており、そのそれぞれにおいて自動車の軽量化に役立つ製品の開発、供給を行い、お客様から高い評価をいただいていた。

アルミ板の製品としては、自動車の外板部品に使うパネル材や熱交換器材などを供給してきている。今後は、外板部品のみならず車体構造そのものにもアルミ板を使う動き、および海外市場への安定供給ニーズにも対応していく。

また、アルミ押出加工品では、軽量で衝突安全性に優れる高強度7000系バンパーやドアビームなどの部品の供給を行ってきた。今後はさらに進めて車体骨格にもアルミを使う動きにも対応を進め、かつ海外供給ニーズへの対応力も強化を進めていく。

さらにアルミ合金鋳鍛品では、当社独自開発の高強度6000系鍛造合金を用いたサスペンション部品をオンリーワン製品として供給してきている。今後は一層の商品力強化、および日米中の三極体制を通じてワールドワイド市場への働きかけを強めていく。

いっぽう、銅合金では自動車用端子材向けに幅広い製品ラインナップをもっており、今後はさらなる高強度・高導電率化や大電流対応などの動きを進める。

以上、事業概要と今後の方向性について述べてきたが、自動車分野は当社アルミ・銅事業においては最大の事業分野であり、今後ますますその重要度は増してくる。

今後も顧客密接体制でニーズを常に聞きながら、時代を先取りできる材料、素形材メーカーになれるよう努力していく所存である。